

「子どもの発達と環境要因」授業報告書

教育臨床 水口啓吾

授業情報

授業名 子どもの発達と環境要因

開講 2023年度後学期金曜日 | 時限目

受講者数 10名(心理臨床発達専攻1年生)

授業概要 子どもの学習を捉えるうえで、ワーキングメモリ(Working Memory)が重要な役割を担っている。本授業では、子どもの学習での躓きをワーキングメモリの観点から把握すると共に、ワーキングメモリの観点からの支援方法について理解を深めていく。

授業スケジュール

第01回:オリエンテーション

第02回:ワーキングメモリの基礎知識(講義)

第03回:ワーキングメモリと学習(講義)

第04回:ワーキングメモリと学習支援(講義)

第05回:学生発表(輪読)とロールプレイ①

第06回:学生発表(輪読)とロールプレイ②

第07回:学生発表(輪読)とロールプレイ③

第08回:学生発表(輪読)とロールプレイ④

第09回:学生発表(輪読)とロールプレイ⑤

第10回:学生発表(輪読)とロールプレイ⑥

第11回:学生発表(輪読)とロールプレイ⑦

第12回:学生発表(輪読)とロールプレイ⑧

第13回:学生発表(輪読)とロールプレイ⑨

第14回:学生発表(輪読)とロールプレイ⑩

第15回:事例検討会とまとめ

授業到達目標

- ① 現在の教育現場における発達障害児の抱える困難さおよび問題の背景について心理学的視点から説明できる。
- ② ワーキングメモリの観点を、教育現場でどのように活かすことが可能であるかについて、具体的に述べるができる。
- ③ 具体的事例の検討を通じて、困難を抱えた子どもを取り巻く環境への働きかけについても実践的に考察することができる。

授業形態

講義形式と演習形式を用いて実施した。●講義形式の授業では、テーマに関連する最新の研究知見や最近のニュースの紹介を行い、受講生の関心を高める努力を行った。授業スタイルとしては、配布資料に適宜、穴埋めを設定し、受講生が授業中のスライドを見て記入する形を採用していた。●演習形式の授業では、教科書の各章を受講生に振り分けて発表を行ってもらい、発表内容(テーマ)を踏まえ、受講生同士でディスカッションを行った。また、教科書に紹介されている、ワーキングメモリの観点からの学習支援を実際に授業でも実践して効果の検証を行った。その際は、学生同士でペアとなり、教師役(支援者)と子ども役でロールプレイを行い、学生はいずれの役も体験した。

以上を踏まえ、受講生自身に授業への積極度を高めてもらおうと同時に、「授業で重要な内容は何であるのか」を常に意識してもらえるように努めた。

授業に対する学生からのコメント(自由記述)

○ワーキングメモリに関する論文や本の講読と発表を行うことで、理解が深まった。○ペアワークを通して、教師役と子ども役の両方を体験できたことで、より具体的に支援の方法や問題点について考えることができた。

○今回のワークでは、教科書に記された支援方法の実践がメインであったが、既存の支援方法の問題点や改善点などについても議論・実践してみたかった。○教科書に記されている具体的な支援を実践している場面(機会)をもっと紹介してほしかった。

授業改善点

今年度は、学生同士での話し合い(ペアワーク)を積極的に取り入れたが、学生と教員とが話し合う機会が少なかった。学生同士だけではなく、授業テーマに関して教員との意見交換の場を増やすことで、より受講生の授業内容の理解を深化させることができると考える。その機会が少なかった事が反省点であるため、次年度は、学生と教員との意見交換の機会をより多く設けていく。